



高橋 花音さん

普通科 2年B組



田村 粋さん

普通科 2年B組



遠藤 龍雅さん

普通科 2年A組

平館高校生と八幡平市長 放課後トーク

話してくれた平館高生の皆さん

佐々木市長 生徒数が減っていますが、学校生活はどうですか？寂しい、とか。田村さん 名前とかは覚えやすくて、クラスのみんなと仲良くなりやすいってところはすごく良いかなと思います。学校では、授業で分からなかったところを教え合ったり、昼休みに体育館で友達と遊んだりとか、そういう感じで過ごしています。遠藤さん みんなで頑張れるところは

セッション1 平館高校での学校生活について

市民から親しみを込めてそう呼ばれる「若手県立平館高等学校」。862.3平方メートルという極めて広い市域を持つ本市にある唯一の高校で、在校生64人の小規模校です。9月11日、佐々木市長が同校を訪問。現役の平館高生がどんな高校生活を送っているかや自分が描く将来像、学校や地域がどうあってほしいかなどを語る「平館高生と八幡平市長放課後トーク」を行いました。

「ヒラコ」。



市と平館高校が強力に連携し、子どもたちの学びと成長を全力で支えます。

平館高校の存続・魅力化に向けた市長メッセージ

平

館高校の存続が危ぶまれる中、市民の皆さまから「市はどのように取り組んでいるのか」という切実なお声を、多くいただいております。

平館高校は、本市の将来を担う若者が学び、成長し、未来へ羽ばたくためのかけがえのない教育拠点です。

市はこれまでも「平館高校教育振興会」への財政支援を通じて、保護者負担の軽減をはじめ、学校の存続と魅力向上に向け、さまざまな支援に取り組んでまいりました。

一方で、少子化が進み、高校を取り巻く環境が大きく変化する中、平館高校を将来にわたって地域に残していくためには、



これまでの支援に加え、学校と市がこれまで以上に連携し、具体的な取り組みを進めていくことが必要だと考えています。

地域の高校が失われることは、地域で学ぶ選択肢だけでなく、地域の活力や未来にも大きな影響を及ぼします。

平館高校の存続は、

私たちの未来そのものです。

市では強い危機感を持ち、学校・地域・行政が一体となって、地域の中学生が「平館高校で学びたい」、そして市外の生徒からも「八幡平市で学びたい」と思ってもらえるような、魅力ある教育環境と受け入れ態勢づくりを進めてまいります。



生徒と教職員が一緒になって行った、ムラサキのポットあげ作業

田村さん 一番は、海に行つて山田高校・雲石高校と交流するイベントです。すごい印象的で、なかなか経験できないと思います。遠藤さん 自分は平高に入学するまで、ムラサキっていう植物をあまり知らなくて。入学してから、生徒と先生と一緒に、山に行つてムラサキを植えて育てていることが印象に残っています。

良いなと思っています。もう少し人数がいたら、もっとワイワイできるのになつて思うこともあるんですけど、みんな仲良く楽しくやっています。高橋さん 忙しい人がとても多いというか…。委員会を兼務してる人が結構いて、自分も生徒会と図書委員、学校行事委員の3つを掛け持ちしていて。みんな忙しいから、自分も動かなきゃなつていう気持ちになつています。佐々木市長 入学から1年以上経過して、特に印象に残っていることは？

人前で発表するっていいことなんだなつて気づけた



生徒会に立候補した経験と周囲からの応援で、自分に自信を持つことができたと言花音さん

高橋さん 今の時期だからっていうのもあるんですけど、個人的には生徒会選挙が、結構印象に残っています。私は平高に入学してから、人生で初めて生徒会に立候補して「自分がやります」って、人前で堂々と発表することを体験しました。

もともと人前で話すことが嫌いだったけど、周りから「良かったよ」とか「頑張つて」って言われることが増えて。発表することは怖くなくなつたし、自己肯定感が低くて自分なんかがつて思ってたけど…今は、やれてよかったなつて。

佐々木市長 すごく成長されましたね。

平館高校での学び 3つの特徴

中学生と保護者の皆さまへ

1

支援体制で深まる学び

教師・支援員による2人体制の科目を設けるなど、少人数だからこそできる、きめ細やかな指導が可能。1人1人の理解を深めます。

2

仲間と広げる研究

グループでの話し合いや協働学習を通じて、考えを深め、課題を解決する力を身に付けます。

3

1人1人に寄り添う指導

進路相談や面接指導など、目標に合わせて丁寧にサポート。安心して挑戦できる環境を整えています。

セッション2 平館高校の魅力 地域との関わりについて

佐々木市長 平高に入学する前と、入学してからの印象の変化はありますか？
田村さん 入学前、平高のパンフレットに、地域とのつながりが強いっていう在校生の感想があったんですけど、入学して、総合的な探究の時間や、市内の観光地にフィールドワークに行ったり、旅行プランを作ってみたり。八幡平市についての学習が多かったので、予想通りかなと感じます。
遠藤さん 自分の父が平高出身で、よく「楽しかった」とか話を聞いていて。ちよつと疑っていたのですが、入学してみたら、生徒と先生の距離も結構近くて、生徒・先生同士で楽しくなれるような学校で。

佐々木市長 先生たちも、生徒との距離感を近づけようってことを、意識してやってらっしゃるのですか？
坂牛副校長 本校の先生たちは、できる



普段の学校生活や体育祭での出来事を楽しそうに振り返る高橋さん

だけフランクに話し掛けよう、関わろうっていう姿勢でやっています。体育祭に先生が出場したときは、生徒も盛り上がってくれました。体育祭初開催のeスポーツ種目では、先生が強かった。・
高橋さん マリオカートをやって、先生が勝って(笑)。
高橋さん 平高の印象は、盛岡の高校に通っていた姉が「平高の方が良かった」って、ずっと言うて。理由は、盛岡の学校があるあるなんですけど。早起きしないといけない、時間が少ない、勉強にも時間かかるし、部活動なんてやる時間がない、みたいなことを。平高の方が絶対いいよって勧められて、入学した感じです。最初は、自分がやていけるか不安があったし、高校って体育祭や文化祭ぐらいしか行事がないって思ってたので、思いのほか、いっぱいあるんだなって感じました。
佐々木市長 その点は、楽しい？
高橋さん 楽しいです。
佐々木市長 良い方向に印象が変わって良かったです。2年生になってもっと平高がこういう学校だったら良いな、こういうことができたならなっと思うようなことはありませんか？
田村さん 生徒数が少ないので、もう少し、地域に平高を広めることができれば。今もやってるんですけど、範囲を広げて紹介できればって思っています。



8月に実施した「おためし地域留学」(※2)では、県外から参加した中学生に、学校生活や校内行事などを説明し、平高の良さをPR

- ※1 地域みらい留学：都道府県の枠を越え、県外から平館高校に進学する生徒を受け入れる仕組み。
- ※2 おためし地域留学：地域みらい留学につなげるため、県外の中学生が本市に短期間滞在し、高校での学びや地域での暮らしを体験するプログラム。

佐々木市長 前向きな意見をいただいて良かったです。生徒の皆さんがどう思うか、気になっていました。平高の魅力化の話ですが、ムラサキの紫根染めを筆頭に、ここならではの魅力があるわけですが、スパルタキャン・ライトは、どう思いますか？
田村さん 自分は以前、プログラミングをやっている、おためし地域留学で平高に来てくれた中学生にもプログラミングが得意な子がいたので、そういう子が入学したいって思える学校にはなると思っているので、良いと思います。
高橋さん 私は、あんまり…(笑)。パソコン系全般苦手なんです。もし体験しようってなったら取り組むんですけど「自分、大丈夫かな？」っていう心配はあります。
鈴木高校魅力化コーディネーター 選べるというの、かも、ですね。平高に入ったら、市のバックアップで課外時間などに取り組むことができます、とかでも。

※3 スパルタキャン・ライト：市の人材育成プログラム「スパルタキャン」から教育要素を取り入れた地域連携型プログラミング授業。学校魅力化事業の一環として、昨年度初めて実施。



平高PRのため、高校の楽しさや活動のSNS動画配信を提案した田村さん

セッション3 未来の自分、平館高校と 八幡平市

佐々木市長 高校自体がこうだったら、もっと中学生にとって魅力的な学校になるっていうアイデアはありますか？
田村さん 地域みらい留学のことをPRしたり、地域の中学校を回って平高をPRしたりしてるので、現状でも、ある程度、情報が行き渡っているのではないかな、と思います。

遠藤さん 実際に、中学生に平高に来てもらったり、文化的なことを体験してもらったり、面白さとか興味を感じてもらったりできればいいかな。
高橋さん バジルクッキーとか熔岩パンの他に、もう一つ、平高ならではのものを作るのもアリかなと思います。
佐々木市長 平高、八幡平市の魅力って、当たり前前の景色だったり、日常だったたり、地元にいると気づかないこともあると思うから、自分たちが八幡平市の良さを、さらに認識していかねければなって、今思っています。



地元就職を希望する遠藤さん。平館高校で学びを深めたいと語る

地元で働きたいからこそ、

平高を希望して、入学したって感じですよ。

「
 地元就職を希望する遠藤さん。平館高校で学びを深めたいと語る」
 います。私たちも応援したいと思っています。



入学者確保に向け、市内の小中学生と一緒に活動できる機会や行事を提案した遠藤さん

佐々木市長 皆さんが将来、何を目指しているかについて、教えてください。
遠藤さん 卒業後は、恩返しの意味で、生まれ育った八幡平市内にある企業への就職を考えています。

高橋さん 私は、高校生になったら勉強に集中しようと思っていたことと、生徒と先生との距離が近いっていうことも聞き、平高に入学しました。夢は学芸員になることで、そのため、盛岡大学社会文化学科への合格を目指して、今は勉強しています。

田村さん 地域とのつながりが強いっていうことで平高を志望したので、将来は地域に貢献できる会社に就きたいと思っています。卒業後は大学進学を目指していて、たくさん勉強して、できれば岩手大学に入りたいと思っています。
佐々木市長 それぞれ明確な目標や、

しっかりした考えを持っていて素晴らしいと思います。八幡平市で働きたいという気持ちはありがたいですし、私たちも応援したいと思っています。

(放課後トーク終了)

平館高校の「気になる」を

平館高校で相談しませんか

授業見学・進学相談会を開催

平館高校への入学を考えている中学生とその保護者向けに、次の期間、進学相談会を開きます。

入学後のことで、本人や保護者が気になっていること、不安に感じていることなど、どんな質問にも可能な限り答えますので、気軽に申し込んでください。

- ▷相談会の期間 10月30日(金)から11月6日(金)
- ▷相談・見学時間 9:00～16:00
- ▷場所 県立平館高等学校(平館25-6)
- ▷申し込み 電話または右記QRコードから申し込んでください。
- ▷電話 74-2609(申し込みは9:00～16:00)
- ▷担当 副校長、教務主任



QRコードから申し込む場合は、学校から確認の電話連絡があります

10月30日(金)
 ,
 11月6日(金)

例えばこんなこと
 聞いてみよう

入学から卒業までの
 必要経費

キャリア教育・進路指導
 進学・就職先

不登校・学力不振など
 就学の不安